

教 員 業 績

フリガナ	サトウ ヒロユキ				
氏 名	佐藤 洋行				
学 歴					
年 月	事 項				
平成 8 年 3 月	私立九州国際大学附属高等学校 卒業				
平成 8 年 4 月	国立九州大学農学部 入学				
平成 13 年 3 月	国立九州大学農学部畜産学科 卒業				
平成 13 年 4 月	国立九州大学大学院生物資源環境科学府 修士課程 入学				
平成 15 年 3 月	国立九州大学大学院生物資源環境科学府 修士課程 終了				
平成 15 年 4 月	国立九州大学大学院生物資源環境科学府 博士後期課程 入学				
平成 19 年 3 月	国立九州大学大学院生物資源環境科学府 博士後期課程 終了（農学博士号取得）				
職 歴					
年 月	事 項				
平成 19 年 4 月	株式会社ブレインパッド 入社				
平成 21 年 1 月	株式会社ブレインパッド 営業部サブマネージャー				
平成 21 年 7 月	株式会社ブレインパッド 営業部マネージャー				
平成 24 年 7 月	株式会社ブレインパッド アナリティクスサービス部ゼネラルマネージャー				
平成 26 年 1 月	株式会社ブレインパッド チーフデータサイエンティスト				
平成 26 年 1 月	株式会社 Qubital データサイエンス 取締役社長室室長				
平成 27 年 7 月	株式会社ブレインパッド マーケティングプラットフォーム本部 副本部長				
平成 28 年 4 月	多摩大学 経営情報学部 准教授				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					

現在所属している学会	応用統計学会
年 月	事 項
平成 18 年 8 月	新潟大学農学部 特別集中講義 講師
平成 25 年 5 月	立教大学経営学部 産学協同実践型プロジェクト 講師
平成 26 年 4 月	慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員（訪問）
平成 26 年 4 月	データエクステンジコンソーシアム データ活用人材の育成教育分科会リーダー
賞 罰	
年 月	事 項
	なし

研究分野	研究内容のキーワード	
データサイエンス	統計、機械学習、ビッグデータ	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
新潟大学特別講義「ArcGISとExcelでもとめる景観指数」	2007年8月	GISの代表的なソフトウェアであるArcGISとExcelを利用して、衛星画像や航空写真を解析する方法を講義した
データサイエンティスト入門研修「SQLによる集計・分析」	2013年1月～ (現在も定期開催)	社会人対象の研修。実際の消費行動データを、SQLを用いて分析する手法について解説し、実際に分析・プレゼンテーションをする演習を行う。
立教大学産学協同実践型プロジェクト「データサイエンティスト養成講座」	2013年4月～7月	学生に分析を講義した上、GDO社より提供された実データを、BIツールであるTableauとExcelを利用して分析、マーケティング施策を提案してもらう演習を行った。
データサイエンティスト入門研修「Rによる統計解析」	2014年1月～ (現在も定期開催)	社会人対象の研修。実際の消費行動データを、統計フリーソフトであるRを用いて分析する手法について解説することで、統計について学んでもらう。座学の後には実際に分析・プレゼンテーションをする演習を行う。
慶応義塾大学講義「データビジネス創造講座」	2014年4月～ 2015年3月	学生に分析を講義した上、統計フリーソフトであるRを利用したデータ分析演習を行った。
統計数理研究所データサイエンティスト育成クラッシュコース「第一回データサイエンスとは」	2014年4月～ (現在もMOOCで閲覧可能)	データサイエンティストが必要とされる背景と、必要なスキルについて解説している。
データ分析入門講座	2014年6月～ (現在もオンラインで閲覧可能)	企業のマーケティング担当者向けに、データ分析プロジェクトの進め方をフレームワークとして紹介し、フレームワークに従った分析例を解説している。
2 作成した教科書、教材		
ArcGISとExcelでもとめる景観指数	2007年8月	パワーポイントプレゼンテーション。解析に必要な数式のポイントと、コンピュータソフトを利用してそれを算出する方法について解説した。
SQLによる集計・分析	2013年1月	冊子・パワーポイントプレゼンテーション。RDBを使用したデータハンドリングの基礎、およびSQLにより集計分析を行う手法を解説した。
データサイエンティスト養成講座	2013年4月	パワーポイントプレゼンテーション。マーケティング分野で利用されるデータ分析手法と、BIによる表現について解説した。
Rによる統計解析	2014年1月	冊子・パワーポイントプレゼンテーション。Rのりよう方法の基礎、および統計解析、回帰による予測を行う手法を解説した。
データビジネス創造講座	2014年4月	パワーポイントプレゼンテーション。統計の基礎について解説しながら、Rを利用した分析方法について紹介した。
データサイエンスとは	2014年4月	オンライン動画。データサイエンティストが必要とされる背景とスキルについて解説した。
データ分析入門講座	2014年6月	オンライン動画。データ分析プロジェクトの進め方をフレームワークとして紹介し、フレームワークに従った分析例を解説した。

3 実務家教員についての特記事項		キャリアのスタートとなった株式会社ブレインパッドでは、博士課程でリモートセンシング画像解析の研究に従事した経験を活かして、メーカー／通信／金融など幅広い業種の大手通販企業のデータ分析プロジェクトにプロジェクトマネージャーおよびデータサイエンティストとして携わる。その経験から、ダイレクトマーケティング、R&D、テキストマイニングなど幅広い分野でのデータ分析に精通している。また、Qubitalデータサイエンス社では、取締役として、データ分析を専門とする会社のインフラ／組織整備を主導したことから、分析プロジェクトについて、プロジェクトの遂行面だけでなく、その基盤となる物的・人的資本についての知識にも明るい。
------------------	--	--

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 農学博士（九州大学） KXEN Professional Certification EMCデータサイエンティスト育成コース講師資格	2007年3月 2008年7月 2013年9月	景観生態学的視点から見た大分県久住高原の草地畜産 データマイニングツール「KXEN」（現SAP Predictive Analytics）のプロフェッショナル クラウドコンピューティングITベンダーEMCの提供するデータサイエンティスト育成コースの講師資格
2 実務家教員についての特記事項		株式会社ブレインパッドにて、創業3年目から参画し、創業7年目の東証マザーズ上場、2年後の東証一部への市場変更までを、マネージャーとして経験する。また、同社における教育事業の立ち上げ、一般社団法人データサイエンティスト協会の立ち上げ支援を経て、株式会社Qubitalデータサイエンスでは、設立準備から参画し、設立後は取締役として、設立2年目での黒字化を達成する。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) データサイエンティスト養成読本	共 著	2013年8月	技術評論社	データサイエンスの基本となる考え方から、R言語による統計解析の基礎、マーケティングに応用できるデータ分析を解説 同上。最新の情報を追加
データサイエンティスト養成読本（改訂第2版）	共 著	2016年8月	技術評論社	
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				

Introducing Viewpoints of Mechanics into Basic Growth Analysis (1) : Three Aspects of Growth Mechanics compared with Three Law of Motion	共 著	2006年1月	J. Fac. Agric., Kyushu Univ, Vol. 51, No. 2	既存の生物の成長解析モデルに、生育環境の視点を加えた。ニュートンの運動の三法則との類似性から、生体重量の変動にネガティブな効果として生育環境が組み込まれていることを示唆した。
Introducing Viewpoints of Mechanics into Basic Growth Analysis (3) : Applying Growth Force and Leaf-Light Complex to Production and Digestion, Analyses of Forages	共 著	2007年1月	J. Fac. Agric., Kyushu Univ, Vol. 52, No. 1	既存の飼料の生産力分析に、植物の成長と光量との方程式を組込むことを試みた。結果として、従来の生産力分析で用いられていた成長率は植物重量とその増加量で置き換えられた。また、従来の生産力分析で用いられていた要面積比は、層別平均葉重量により置き換えられた。これにより、新たな指標による生産力分析が可能となることを示した。
A Note on Searching Digits of Circular Ratio and Napier's Number for Numerically Expressed Information on Ruminant Agriculture	共 著	2007年1月	J. Fac. Agric., Kyushu Univ, Vol. 52, No. 1	既存の生物の成長モデルに。ほぼすべて自然対数が含まれることから、背後にオイラーの公式が存在していると考え、反芻動物科学を例に、 π と e とがどのように求められるのか、過去の文献データを用いて計算した。結果として、天候に関する変数など10項目が π に関連すること、アミノ酸に関する項目が e に関連することを示唆した。
Introducing Viewpoints of Mechanics into Basic Growth Analysis (6) : Some Solutions to a Simple Differential Equation Associated with Growth Mechanics	共 著	2007年1月	J. Fac. Agric., Kyushu Univ, Vol. 52, No. 2	反芻動物の成長と気候とに関する、単純な微分方程式を探索した。結果として、7つの反芻動物学的視点の関数と、1つの物理学的視点の関数により、動物の成長メカニズムを微分方程式で表すことができることを示唆した。
景観生態学的視点から見た大分県久住高原の草地畜産	主 著	2008年3月	博士論文	大分県久住高原を題材に、衛星画像および航空写真をGIS上で処理することによって、各景観要素にどのような特徴があり、それらがどのような管理によって成立し、現在の生態にどのような意義を持っているのかを考察した。
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) 暖地型マメ科牧草ファジービーンの側芽の成長に関する研究	主 著	2001年3月	日本草地学会誌, 47(別)	マメ科牧草ファジービーンの刈り取り高さの違いや、刈り取り部位の違いによる、側芽の成長の違いを、実験により明らかにした。
大分県久住高原におけるカヤネズミによる採草用牧草地の利用	共 著	2001年3月	日本草地学会誌, 47(別)	従来、野草地に生息するとされたカヤネズミが牧草地にも生息していることを捕獲調査により明らかにし、それが牧草地の植生に影響を及ぼしている可能性を示唆した。

1番草刈り取り時のトラクターによる踏圧がファジービーンの刈株に与える傷害と2番草の収量におよぼす影響	主 著	2002年3月	日本草地学会誌, 48(別)	マメ科牧草ファジービーンの刈り取り時のトラクターによる踏圧が植物体に及ぼす影響について調査した。踏圧による植物体の傷害を類型化し、各型によりどのようにその後の再生量が変化するかを明らかにした。
久住高原の牧野に残存する土塁の現状	主 著	2003年10月	西日本畜産学会	大分県久住高原における景観の構成要素として特徴的な土塁について、その成立過程と現状とを調査し、GIS上にプロットすることで可視化した。
大分県久住高原における草原景観の構成要素	主 著	2004年3月	日本草地学会誌, 50(別)	大分県久住高原における景観の構成要素を現地調査により類型化し、各型がどのように分布しているかをGIS上で可視化した。
野草地・牧草地の配置が齧歯類の動向におよぼす影響	共 著	2004年3月	日本草地学会誌, 50(別)	野草地と牧草地が隣接する地域において、げっ歯類の捕獲調査を行い、季節と人間による管理行動により、どのように移動し、分布が変化するかを明らかにした。
大分県久住高原の景観形成における入会組織による草地畜産の役割	主 著	2004年10月	西日本畜産学会	大分県久住高原における景観の構成要素と、人間による管理行動をGIS上でオーバーレイすることにより、草地畜産が組織的な景観管理行動に重要な役割を果たしていることを示唆した。
大分県久住高原の採草用牧草地における裸地発生の要因に関する一考察	共 著	2006年3月	日本草地学会誌, 52(別2)	当時、急激に増加していた大分県久住高原における牧草地の裸地について、GIS上にプロットし、周囲の植生や人間による管理動線から、その発生要素について、いくつかの原因を示唆した。
土塁：草地に隣接する線形の景観要素	主 著	2006年3月	日本草地学会誌, 52(別2)	大分県久住高原における景観の構成要素として特徴的な土塁について、周囲の植生とともに内包する植物種の類似度からクラスター分析を行い、その生態学的な意味を考察した。
牧野におけるカヤネズミの動向および越冬	共著	2006年3月	日本草地学会誌, 52(別2)	野草地と牧草地が隣接する地域において、げっ歯類の捕獲調査を行い、カヤネズミが越冬期に、通常とは異なる営巣行動を行う可能性があることを示唆した。
ビジネス領域におけるデータサイエンティストの今とこれから	主著	2013年12月	第五回横幹連合コンファレンス	ビジネス領域で求められるデータサイエンティストの役割と、その仕事内容について解説するとともに、昨今のデバイス・センサー多様化により、データサイエンティストに求められる役割がどのように変化するかを考察した。
ビジネスにおけるデータ活用から見た地域創生	主著	2016年9月	統計関連学会連合大会	ビジネスにおけるデジタルマーケティング技術の、地域創生への応用可能性について考察した。

著書、学術論文等の名称	単著、 共著 の別	発行又は発 表の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<p>(その他)</p> <p>大学におけるデータサイ エンス教育と社会からの 要請</p> <p>データサイエンティスト という職業について</p>	<p>主 著</p> <p>主 著</p>	<p>2013年11月</p> <p>2014年2月</p>	<p>立教大学経営学 部公開講演</p> <p>ソフトウェアデ ザイン, 2014年2 月号</p>	<p>データサイエンティストに必要なス キルと、大学教育との関連性につ いて論じた。</p> <p>エンジニアに対し、データ分析に関 する知識を身に付けることにより、 データサイエンティストになること が可能であることを解説した。</p>